

中学校の外国語教育

中学校の外国語教育は、従来の「読む」「書く」ことに重点をおいた授業から、「聞く」「話す」「読む」「書く」がバランスよく学習できる授業へと変わってきています。実際、中学校では、生徒が英語で自分の気持ちや考えを伝え合う場面を増やすため、教師と生徒との英語によるコミュニケーションを数多く取り入れる指導が行われています。生徒たちも、伝えたいことが伝わる喜びや、相手が伝えたことを理解できる喜びを感じながら、相意的に取り組んでいます。



中学校担当ALT
ジョニー・ルスカ・大和田さん
(住田町有住在住/4年目)

英検受験料の助成制度を開始

本市では、市内の中学生について、民間団体が実施する実用英語技能検定(英検)3級程度の英語力と、コミュニケーション能力を有する生徒の育成を目指し、本年度から英検の受験料を年1回全額助成することにしました。初めて助成対象となる本年度第2回検定では、市内中学校の3年生のほぼ全員が受験しました。1月に実施する第3回検定では、1・2年生が受験する予定となっています。

英語に親しむ環境づくりを目指して

国際リニアコライダー(ILC)誘致やインバウンド(訪日外国人)の増加など、国際化の進展への確かな対応が各方面で求められています。こうした動向を踏まえ、今後、市では、小・中学校における外国語教育の充実、幼児段階から生の英語に触れる機会の拡充などに積極的に取り組んでいきます。



本年も8月上旬の4日間、リアスホールを会場に、気仙管内在住の幼児から小学生までを対象とした、英語に親しむ国際交流イベント「キッズサマースクール in けせん」が開催され、期間中延べ約400人の参加で盛り上がりました。米国のアーカンソー州立大学の教授や学生、県内ALTなどが講師を務め、「読み書き」「英会話」「音楽とダンス」「工作」「アメリカンゲーム」のカリキュラムを実施しました。子どもたちは生き生きとした様子でスクールを楽しんでいました。



キッズサマースクールに参加した子どもたちからは、「授業もゲームもとても楽しかった」「前回も参加した。次はもっと難しい英語に挑戦したい」「英語が大好きになった。また参加したい」「英語をもっと勉強したい」との声が寄せられました。